令和７年度　第２回ＪＲ小野田線活性化委員会　議事録

令和８年３月２日（月）

３　議題

発言者	発言要旨
榊原委員長	本日は今年度の主な取り組みである鉄道とバスの共通乗車事業、夜間増発事業の報告と次年度の事業内容についてである。ＪＲ小野田線沿線地域の公共交通を、将来にわたって持続可能なものとするため、本日は闊達な御議論をお願いしたい。
◆令和 7 年度の小野田線沿線地域の公共交通活性化に向けた実証事業の実施状況について（報告第１号）	
榊原委員長	事務局より説明いただいた。御質問や御意見があればお願いしたい。
榊原委員長	報告第１号の３ページ、利用実績で上下のグラフの太さが違うのは何故か。
ＪＲ西日本	登録者数の変動によるもの。ちなみに利用が全くないゼロの日もある。
渡辺 委員代理	鉄道とバスの共通乗車事業において、社会人・高校生・大学生等の利用者属性は把握できているか。
西嶋委員	利用登録時の入力はあるが今回のデータには未反映。ただ通学・通勤定期対象で推定９割が学生、ピーク時間も午後４～５時なので高校生が多いと推察している。
西嶋委員	なお最終増発便についての補足であるが、宇部駅で山陽線の下りを待つより、小野田線最終便に乗車する方が待ち時間が短く接続が良くなってしまっているので、小野田線利用で帰るケースもあるようである。この利用の場合、定期利用では不可であるため注意が必要。
榊原委員長	最終便利用者のうち、本当に小野田線内のみ必要な層の把握はできないか。
西嶋委員	手作業でのカウントやカメラ映像の解析で全てを把握することは難しい。概算的に把握するためには現状課題が幾つかある。
◆令和８年度活動方針、事業計画（案）及び収支予算（案）について（議案第１号）	
田中委員	夜間増発のコストと、利用実態は？
西嶋委員	夜間増発のコストは３３０万円/年。こちらは運転させた実費、車掌などの人件費も全て含んでいる。
榊原委員長	鉄道とバスの共通乗車事業において、定期券利用者等、公共交通全体としての利用としては増えているか。
西嶋委員	ＪＲ定期の販売総数増加の効果を精査したい。また、船木鉄道さんにも協力いただきながらバス定期の販売状況も確認する予定。共通乗車アンケー

	ト等で追加のヒアリングも併せて検討する。
榊原委員長	これは意見ということであるが、共通乗車実証終了後の持続可能な費用負担等のスキーム設計は、行政主導で取り組む今後の課題であるかと思う。また、バス会社等も含め公共交通全体での運賃水準アップ等についても今後議論していく必要性を感じている。
事務局	バス・鉄道利用者のばらつきや利用実態の詳細調査を交通コンサルに委託することも検討していく。
井上委員	最終便について、学生向け案内が間接通知のみで、新入生向けガイダンス等で直接説明いただく機会を設けてほしい。特に新入生への PR が重要だと思う。
事務局	事業決定後、できるだけ早く直接説明会などで周知、拡大を図る。新入生の親御さんにも分かる説明資料準備も今後検討していく。

4　その他

意見等、特になし。

閉会